

Libra

<http://www.tokeikyo.or.jp/kconf/>

Libra Vol. B011
2008年1月1日発行

発行/岩下貞治 東京都計量器コンサルタント協会
〒105-0022 東京都港区海岸1-7-4 東京都計量検定所内
TEL 03-3434-6591 FAX 03-3434-6592

----- CONTENTS -----

- 明けておめでとうございます-----①
計量思想の普及と安全確保に研修は必要
- 東西計コン合同研修会-----①
大阪造幣局見学
- 都民計量ひろば-----①
- 東西計コン合同研修会-----②
- 平成19年度総会予定-----②
- 会員の広場-----②
イロハかるた・川柳



会長 岩下貞治

明けておめでとうございます！ 計量思想の普及と計量安全の確保に研修は必要

新年あけておめでとうございます。会員の皆様には良い年を迎えられたことと拝察申し上げます。

私ども協会役員は計量思想の普及、計量の安全確保に必要な適正計量器の供給をはかるために、年間計画による研修会、見学会等を実施し、会員皆様ともども参加して自らの資質向上に努めています。

ご承知のように、新しい製品は各メーカーより各種発売されます。ユーザーのあらゆる要望に応えるために製品知識を日々研鑽により習得することが必要であると思います。営業活動の積み重ねにより得られる知識習得も重要ですが、当会が計画する研修会は、役員諸氏が会員皆様の要望に

と十分な検討により開催する行事であり、是非とも参加を切望します。

高精度な計量器を使用する機会が多くなったユーザーへのコンサルティングはますます必要な要素となります。正しい測定値を得るための正しい操作法、点検保守方法、管理が重要であることなど、ユーザーに対して行うコンサルティングが信頼を得て社会的地位向上に資することになります。

計量行政に協力する計量記念日行事、家庭用計量器精度確認事業等は毎年参加、社会貢献の場として当会が重要視する事業の参加です。

会員皆様のご意見やご要望をいただき、事業計画に反映していくよう努力を重ねてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

会員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

都民計量のひろば

計量記念日の11月1日、「都民計量のひろば」が新宿駅西ロイイベントコーナーで、東京都計量検定所と東京都計量協会が中心となって開催されました。

メインテーマを「くらしと計量」、サブテーマを「あなたと地球の健康のために」とし、都民に楽しみながら計量制度への理解を深めてもらうことを目的としての行事です。今年は前年の2倍のスペースに「計量と健康」「食品と計量」「環境と計量」「ガス・水道・電気と計量」「計量相談」の5つのコーナーが用意されました。

開会は10時30分。大原良房氏(実行委員会委員長)の開会宣言で、グリーンユニフォームの60余名はそれぞれのコーナーで活動に入りました。

会場の入口近くに陣取った「計量と健康コーナー」は、東京都計量協会と計量器コンサルタント協会が担当し、順番待ちの列ができるほど多くのお客さんを集めていました。中でも骨強度測定や体脂肪率測定に人気が集まり、計測結果を真剣に確認する姿が見られました。

「食品と計量」は東京科学機器協会が担当し、ジュースや清涼

飲料水、果物など飲食物を用意して糖度・塩分・温度などの計量をしていましたが、身近な食品などの測定に参加者は興味を持ったようです。

「環境と計量」は東京計量士会と東京都環境計量協会が担当し、地球環境に関するパネルがたくさん展示されていました。中でも人工衛星から写された地球の夜景は訴えるものがあり、見入る参加者が多数いました。

「ガス・水道・電気と計量」は東京ガス・東京都水道局・日本電気計器検定所が適正な計量器を用意し、相談なども受けていました。

計量検定所が担当した「計量相談」では、計量感覚ゲームが好評で長蛇の列。たまに出るピッタリ賞の歓声は、「ひろば」をいっそう盛り上げていました。

この会場での開催は2度目ですが、昨年倍のスペースを有効に活用したイベントは大成功で、それは514枚のアンケート結果に出ていました。特に「計量と健康コーナー」に人気があったようで、「良かったコーナー」として349票も入っていました。



写真(左から)オープニング・「都民計量ひろば」の表示・健康と計量コーナー・食品と計量コーナー

第16回東西計コン合同研修は大阪造幣局見学

毎年開催されている各地域計量器コンサルタントの交流を図る合同行事、東西計コン合同研修会が11月28日(水)、大阪計量器連合会の御尽力により、見学会及び懇親会が企画されました。

東京からの参加者は残念ながら8名という小部隊、新大阪駅からマイクロバス(タクシー仕様)で見学先へ直行。

見学先は大阪市北区、「独立行政法人造幣局」。旧淀川沿いの桜の名所です。今回は秋の訪問ということもあり「紅葉の通り抜け」ということになりました。

造幣局で関西側参加者と合流、まずは製造工程の見学へ、各工程を専用見学コースで案内され、案内者から各工程の説明を受けましたが、自動化が進んでいて作業者もちらほら、静かなものでした。

現在造幣局で製造している通常の貨幣は、500円ニッケル黄銅貨幣、100円白銅貨幣、50円白銅貨幣、10円青銅貨幣、5円黄銅貨幣、1円アルミニウム貨幣の6種類です。また、通常貨幣のほかに国民の要望にこたえ、時に応じて記念貨幣を製造しています。

工程は大まかに以下のとおりです。1.2.の工程は実際には広島工場で行なわれているということでした。

1. 溶解

銅・ニッケルなどの貨幣材料を電気炉で溶かし、連続鑄造装置で鑄塊を造ります。

2. 熱間圧延・冷間圧延

鑄塊を均熱炉で加熱し、延びやすい高温の間に圧延し(熱間圧延)、さらに常温で圧延して貨幣の厚みにまで仕上げて巻き取ります(冷間圧延)。

3. 圧穿(あっせん)

貨幣の厚みに仕上げた圧延板を、貨幣の形に打ち抜きます。

造幣局ではこれを円形(えんぎょう)と呼んでいます。

4. 圧縁

貨幣の模様を出しやすくするため、円形の周囲に縁をつけます。圧縁後、この円形を加熱してやわらかくします。

5. 圧印

仕上がった円形を、貨幣極印を取り付けた圧印機で、表・裏の模様(ギザのある貨幣はギザも)を同時にプレスします。

6. 検査

圧印された貨幣の模様を検査し、キズのある貨幣など不合格品を除きます。合格した貨幣は厳重に計数し、袋づめます。

一升瓶1.5本分くらいの体積ですが、重そうに見えます。検査工程では女性検査員も見かけました。袋詰め単位は20kg/袋近辺に設定されているそうです。

これらの硬貨は造幣局にある間は「お金」ではなく、日銀へ納入されて初めて通貨としての機能を付与されるのだということをはじめて知りました。お札も同様、印刷局の段階ではただの紙、なのだそうです。

工場から博物館へ。ここで歴史的な貨幣、貴重な資料、等を見学。黄金の輝きに見入る方も多かったようです。

見学を終わって、懇親会場へ徒歩で向かいました。天満橋の大アーケードを通り抜けてヴィアジオーベクアットロというイタリア料理店?へ案内されました。

写真スタジオ風のインテリア、レトロな壁装、イタリア料理とイタリアワインで楽しく盛り上がりました。

写真(左から)

- ・桜の紅葉がお出迎え、こんなにすごいとは、、、
- ・圧印機(造幣博物館入り口にて)
- ・懇親会場で挨拶する岩下会長

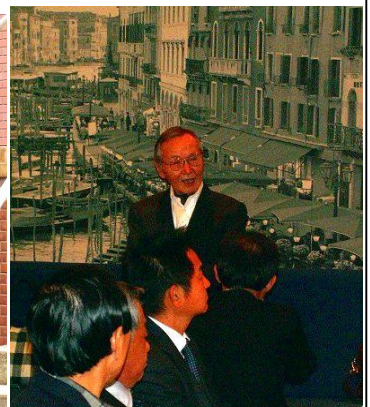
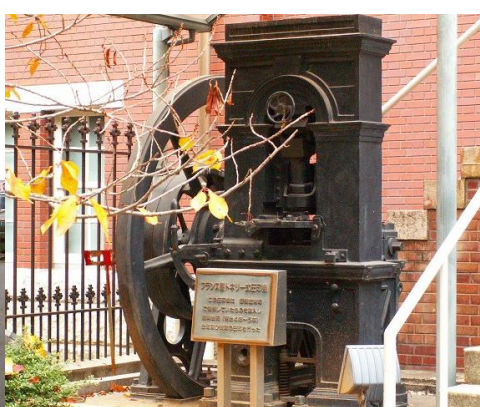
〇〇平成20年度総会予定〇〇

(総会・講演会・親睦会を行います)

・開催日 平成20年2月13日(水) 受付開始pm13:30

・場所 芝弥生会館(港区海岸)

・講演会 「新光電子のJIS計量器について」(仮題)



会員の広場

平成計量管理
「イロハかるた」
by横須賀健治

- エ) 遠慮せず言うことをせよその会議
- ヒ) 品質は作り出すもの造るもの
- モ) もう少し他にはないか考える
- セ) センス磨いて待とう、出番すぐくる
- ス) すぐにやる、それが信頼の第一歩

俳句
川柳
募集
中

五・七・五 で遊びませんか

年ごとに正月気分薄れゆき (OB)

世の中全体がそうじゃないですか?

正月はエビスビールでセレブ気分 (酔い歌)

見ささやかなセレブですね!